



平成26年(2014年)

10/1

第1356号

市報

こだいら



ぐるべー



携帯電話用



スマートフォン用

平成26年度版 小平市全図
こだいら市民便利帳

配布中



最新版小平市全図と、こだいら市民便利帳を配布しています。

配布場所 市政資料コーナー（市役所1階）、東部・西部出張所
問合せ 秘書広報課 ☎042(346)9505

発行：小平市 編集：企画政策部秘書広報課 〒187-8701 小平市小川町二丁目1333番地 ☎042(341)1211(代表)

◇小平市ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp> ◇電子メール info@city.kodaira.lg.jp ◇小平市携帯電話用ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/m>



わっしょいよらー!
がんばる、いだからまじり



小平市民まつり

第三十九回

今年も、ふるさと小平の秋を華やかに彩る、小平市民まつりの季節がやってきました。あかしあ通りでは、色とりどりの手作り感が愛らしい子どもみこし、強い団結力が売りの市内ダンスチームによるダンスパレード、演奏や趣向を凝らしたパフォーマンスが楽しいパレード、迫力あふれる大人みこしが盛大に繰り広げられ、模擬店も多数出店します。

〈詳しくは、6・7面をご覧ください〉

市制施行52周年にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。
本年5月に発表された日本創生会議の報告書「ストップ『人口急減社会』は、全国の都道府県、市町村に衝撃をもつて受け止められました。1千8百余りの市町村の約半数が、2040年に消滅すると報告されたからです。それは出産に適した年齢と言われる20〜39歳の女性が、5割以上減少すると推計されたことが理由です。

は、現在、人口はピークを迎えており、近い将来、減少に転じていくものと推測されます。玉川上水が引かれて350年余り。大きな流れとしては、初めて迎える人口減少社会であります。私は、この現実をどう向き合ったらよいか。歴史的な流れとは言え、対応するには課題解決に向けたブランドデザインが必要で、公共施設を例にすれば、機能別・縦割りのな施設から、総合的・複合的施設への転換、そして再配置を含めた検討が必要で、

これらは避けて通れません。当然、実施については当該地域の議論と理解が前提です。また運営形態についても、公権力などを行使するものを除けば、市民活動団体や地域団体に委ねる選択肢も考慮すべきです。そして最大の課題は、今後の行政運営に欠かすことのできない広域連携であります。周辺自治体との連携により、効率的な行政運営を推進し、地域資源の共有化と、人材や技術の相互乗り入れを進めるべきです。

報告書の発表を契機に、マスコミ各社は人口減少社会を取り上げています。政府も来年度予算に地方の再生と併せ、対策を打ち出しています。小平市の市政運営においても、人口減少社会を見据えた取り組みをせざるをえません。そしてその取り組みは、国や都の政策と整合性がなければ、成果を上げることができません。国の強いリーダーシップと、自治体との強い連携が必要です。

市制施行記念日を迎えて

小平市長 小林 正則



市制施行52周年にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。
本年5月に発表された日本創生会議の報告書「ストップ『人口急減社会』は、全国の都道府県、市町村に衝撃をもつて受け止められました。1千8百余りの市町村の約半数が、2040年に消滅すると報告されたからです。それは出産に適した年齢と言われる20〜39歳の女性が、5割以上減少すると推計されたことが理由です。

これらの課題を市民の皆様と共有しながら、真摯に誠実に、一歩一歩前に進めてまいります。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。また、地域自治においては、上下水道、道路舗